

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対 応		担当課
				修正案	原案どおり	
1	1	自然と共生する環境づくり	P 6 「遠野型新エネルギー」という単語の意味が分からない。補足説明が必要である。	補足説明として「景観資源と調和しながら再生可能エネルギーの地産地消を進め産業の再生化につなげる取組」を追加します。		環境課
2	1	自然と共生する環境づくり	P 6 エネルギー施策に関する「補助制度を活用した民間導入を促進」という記載について、民間企業の参入を促すのか、市民の住宅等への普及を促すのか、補足が必要である。	「一般住宅への太陽光発電設備の導入を促進します」を追加します。		環境課
3	1	自然と共生する環境づくり	P 6 電気自動車の普及施策が欲しい。例えば、充電器は災害時の利用にも役立つため、コミュニティー施設への導入などを検討願いたい。		遠野市新エネルギービジョンに登載しており、取り組むこととしています。	環境課
4	1	自然と共生する環境づくり	P 6 バイオディーゼルの活用策、水素エネルギー施策も検討願いたい。		今後の検討課題とします。	環境課
5	1	自然と共生する環境づくり	P 7 「本市に生息する希少な動植物を…保護に努めます」は、減少が進んでいるので、もう一步踏み込んで取り組んでほしい。		希少野生動植物の減少は、本市のみならず、全国的に減少傾向にあり、地球温暖化の問題や生活環境の変化等により保護には限界があることから、現状での取組を進めます。	環境課
6	1	自然と共生する環境づくり	花巻市では、独自のレッドデータブックを作成している。国や県のレッドデータブックでは希少種になっていないが、遠野市では希少種がいる。イワナとなると希少種ではないが、放流していない在来種となると保護する必要があるので、遠野独自のレッドデータブックを作成してはどうか。		市独自のレッドデータブックを作成するためには、専門的知識と長期の調査期間を要することから、当分の間、いわてレッドデータブックを用いて取り組みます。	環境課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
7	1	自然と共生する環境づくり	P7 「潤いのある自然景観」という記載について、分かりやすい表現にした方がよい。	「緑豊かで潤いのある自然景観」に修正します。		環境課、林業振興課
8	1	自然と共生する環境づくり	P7 河川改修について、魚類のみならず他の生態の維持も含めた記載となるよう文面を検討願いたい。また、維持だけでなく、回復を図ることも入れられないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他の水生生物の」を追加します。</li> <li>・「川本来の瀬や淵、水際植生を残すことで、早期自然回復を図ります。」を追加します。</li> </ul>		建設課、環境課
9	1	自然と共生する環境づくり	P7 環境保全への理解を深める取り組みとして、環境教育と環境学習を推進する記載があるが、子供たちへ体験させることも重要である。知識の醸成だけでなく、体験活動についても記載して欲しい。		現在実施している環境学習は、主に野外体験学習であるから、引き続き取り組んでいきます。	環境課
10	1	自然と共生する環境づくり	P7 3Rとして、reduce、reuseとかある。説明とカルビがあれば、分かりやすいと思う。	補足説明として「3R（リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）」と記載します。		環境課
11	1	自然と共生する環境づくり	P9 まちづくり指標101 市民1人1日当たりのゴミ排出量について H26の排出量より、H28が増えているが、減らしていくべき指標。精査中のH29以降の数字も前年比減となるように。 可燃ごみは減少傾向、資源ごみは増加傾向と、理想の流れになっているが、指標は両方を合算した数値となっており、成果が曖昧になっている。可燃ごみと資源ごみの指標を分けて設定すべきではないか。		ごみの減量については、ごみの総量を減らす必要があります。 3Rの一つにリデュースがありますが、ごみの発生を抑制し資源の保護を図りながら、ごみの減量につなげる必要があります。	環境課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
12	1	自然と共生する環境づくり	第2次総合計画の大きな変更点として、新エネルギービジョンの策定が挙げられる。エネルギー施策に関する指標が欲しい。例えば、快適住マイル応援事業と同様に、新規事業のスマートエコライフ推進事業の申請件数を位置付けてはどうか。		国の助成制度が、平成25年度で終了したことや電力会社の買電価格低下は設備導入にブレーキを掛けている状況と考えます。 この事業は蓄電池設備を対象に含めることで導入促進を図ろうとするものですが、社会情勢に影響されるため、指標にあげることは難しいと考えます。	環境課
13	1	自然と共生する環境づくり	P10 「新たな景観形成」という記載について、今までとは異なる新しい景観を作り出すように感じてしまう。分かりやすい表現にしてほしい。	「景観形成要素の保全と調和の推進」と修正します。		都市計画課
14	1	自然と共生する環境づくり	スマートエコライフ推進事業について、太陽光設備のみではなく、薪ストーブも検討願いたい。		(新規)新エネルギービジョン推進事業の一環として取り組みます。	企画総括担当
15	1	道路交通基盤の充実	P23 大工町通りの木歩道の修繕が新規事業として位置付けられている。国土交通省大臣表彰を受けるなど高い評価を受けていることから、駅前通りの無電柱化事業で木歩道化を検討してはどうか。管理費、冬季の凍結による危険性、バリアフリーに反するなど課題もあるが、市の玄関口であり来訪者へのPR効果は大きい。林業振興施策にもなる。		駅前通りは既に融雪化されており、木歩道化は不可能であります。	まちづくり再生担当

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
16	1	道路交通基盤の充実	P23 ユニバーサルデザインは、説明とかを入れて分かりやすくしたほうがよい。	補足説明として「すべての人にとって使いやすいように作られた環境のデザイン」と記載します。		建設課 企画総括担当
17	1	道路交通基盤の充実	P24 「駅舎の改修」という記載は、市内全部ではなく遠野駅のみに限定した取り組みであることを補足すべき。	「駅舎の改修」を「遠野駅舎の整備」に、「周辺環境の整備による」を「中心市街地の」に修正します。		まちづくり 再生担当、 市民協働課
18	1	道路交通基盤の充実	P24 駅舎改修等による新たな魅力づくりの内容について、利用者拡大など具体的に記載すべき。		大綱3②遠野まちなかの賑わい創出」に、具体的に記載しています。	まちづくり 再生担当
19	1	道路交通基盤の充実	P24 パーク&ライドについて検討してはどうか。なお、これは、観光だけでなく、一般の通勤なども含めての考えである。 ※パーク&ライド：観光地などの交通渋滞の緩和のため、自動車・自転車等を駅やバス停などに設けた駐車場に停車させ、そこから鉄道や路線バスなどの公共交通機関に乗り換えて目的地に行く方法である。		生活交通網の整備を優先的に取り組みます。	市民協働課
20	1	安心安全な地域づくり	P28 治山治水は砂防ダムのほか、森林保全による防護策も考えられるため、その点も明記すべき。		山地災害を防ぎ土砂流出を制御する「治水」と目的に応じた水利用のための水害を防止する「治水」の対策として、砂防ダム、森林保全等がありますが、総称として「治山治水」と表記しています。	林業振興課、建設課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
21	1	安心安全な地域づくり	P36 情報通信技術（ICT）と同様に、FTTH、LAN、Wi-Fiについての補足説明も検討願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FTTH化の後に「光ファイバーを伝送路として加入者宅へ直接引き込む方式」を追加します。</li> <li>・LANの後に「無線ネットワークを利用したインターネットへの接続を提供するサービス」を追加します。</li> <li>・Wi-Fiの後に「無線LANの規格で、使える場所を指す」を追加します。</li> </ul>		ICT・医師確保担当
22	2	健康づくりの推進	P41 健康について、女性の関心は高いが、それに比べて男性は関心が低いようなので、食育を含めて子どもから現役世代、特にも男性にどのように訴えていくかを施策の中に考えながら進めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各年代や地域」の後に「事業所」を追加します。</li> <li>・「受診しやすい検診体制の整備」の前に「就労世代にも」を追加します。</li> </ul>		保健医療課、総合食育推進課
23	2	健康づくりの推進	P41 特定健診や特定保健指導の受診率がなかなか上がらないため、受診者を増やすために、遠野市医師会や病院などが協力し、連携して進めていく必要がある。	「早期発見・早期治療につなげるため」の後に「市医師会など関係機関との連携のもと」を追加します。		保健医療課
24	2	健康づくりの推進	P42 ICT健康づくり事業において、参加者の血圧データや採血結果などもあると思うが、そのデータを参加者が病院受診した際にも生かしたいので、情報を提供していただきたい。個人情報観点から難しい点もあるかと思うが、日頃の状況も分かり、医療費の無駄な経費も抑えられるので検討して欲しい。		参加者の採血検査結果については、検査の都度、個人に通知しています。参加者に対しては、採血検査結果等を主治医にも情報提供して健康管理に活用するよう、引き続き取り組みます。	保健医療課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
25	2	健康づくりの推進	P42 健康づくりを包括的にまとめて地区センターのあり方を考え、地区センターの再編を考えて欲しい。		健康づくりを含む地域づくり支援について検討を進めており、地区センターの在り方についても同じく検討を進めていきます。	市民協働課、保健医療課
26	2	健康づくりの推進	P42 現役世代が、なかなかスポーツに取り組めない現状を踏まえ、1日15分でもスポーツをしながら、日常的に健康づくり活動をしていただくよう、体制やPRを含めて検討して欲しい。		健康づくり総合大学「とすぼ」も含め、魅力あるイベント、教室について現役世代も巻き込みながら、PRしていきます。	生涯学習スポーツ課、保健医療課
27	2	健康づくりの推進	P43 来年、国体開催のためスポーツ施設を整備し充実してきている。この施設を市民が健康づくりをする場として、どのように活用するかを検討してほしい。	「開催後の活用について、サッカーのみならず未就学児等を対象としたイベントなどスポーツに触れ合う場を提供します」と記載します。		生涯学習スポーツ課
28	2	健康づくりの推進	P45 まちづくり指標NO.204の「朝食をとる子供の割合」は現状でも94.8%と高く、現在においてもほぼ達成されているので、もう一歩踏み込んだ新たな指標設定を検討してほしい。		平成26年度の県平均97.7%(小)93.5%(中)、中部97.5%(小)、95.2%(中)に対し、当市は、96.4%(小)、93.6%(中)と決して高くない現状であり、更に積極的に取り組む必要があります。	総合食育推進課
29	2	健康づくりの推進	P45 まちづくり指標のNO.211「スポーツの利用者数」は、同じ人が利用した累計であるが、「自分の健康は自分で守る」という観点から、この指標は全市民を対象とした指標設定を検討してほしい。		広く市民にPRしていきます。	生涯学習スポーツ課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
30	2	健康づくりの推進	P47 医師確保については、遠野市内から医師になる方もいるので、遠野市内に来て働いていただくよう、医師になる家族の方々ともコミュニケーションを図ってほしい。		引き続き、県立遠野病院との連携により進めることとします。	ICT・医師確保担当
31	2	地域福祉の充実	P49 地域福祉は、行政だけではなく地域の方々の協力がなければできない。その人たちに協力していただけるような啓発活動をする時期にきている。自助・共助・公助という言葉を使いやすく打ち出すことが必要である。		広報活動、遠野テレビ、学校教育や社会教育などの学習・講習・体験機会を通じて、分かりやすい言葉を用いて啓発して行きます。	福祉課
32	2	地域福祉の充実	P49 老人クラブは地区の一団体である。会員といっても人によって違うので、十把一絡げの活動ではなく、会員の活動したい個別ニーズを把握することが必要である。より柔軟な組織にするためには活動マニュアルなどがあればよい。また、各地区の老人クラブ間の連携を図ることも重要である。		引き続き、連合会を通じ各クラブで情報交換等を行っていきます。	生涯学習スポーツ課
33	2	地域福祉の充実	P49 遠野市が遠野市地域福祉計画を作成し、社会福祉協議会が地域福祉活動計画を作成している。社会福祉協議会も経営が厳しくなってきた。市から社協に助成するにも、プラス共通管理費などを上積みしてあげないと社協も事業するのに管理費がかかる状態であるので、検討する必要がある。		遠野市社協では、平成26年度決算が赤字となったことから「経営改善計画」を作成しています。共通管理費を上積みした助成という意見ですが、市としては「経営改善計画」の内容を精査し、地域福祉が後退することのないように、助成を行って行き思ふ。	福祉課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
34	2	子育て支援の充実	P65 「子育てするなら遠野」は市内では周知されているが、市外から人を呼び込む点から市外向けのPRが必要である。また、地元の高校生が卒業する時に、「子育てするなら遠野」のパンフレット等を渡すことで、進学や就職で市外に一度転出しても、ある機会にパンフレットを見直して、遠野に帰りたいという人もいると思う。また、成人式に配布しても効果的である。	下記文面を追加します。 「子育てするなら遠野」をキャッチフレーズに、若い世代の就業と男女の出会いを創出し、定住化の推進と併せて結婚・妊娠・出産・子育ての各種施策の情報を市内はもとより市外にも発信PRし、将来的に「子どもと住むなら遠野」を目指します。		子育て総合支援課
35	2	子育て支援の充実	P65 「子育てするなら遠野」は、他の市町村とは違う遠野独自のインパクトのある事業が必要。若い人たちに来てもらうために、家賃補助や土地は安く提供するなど徹底して行った方がよい。そして将来は「住むなら遠野」につなげる。交通インフラも整備されてきたので、市外に勤めていても遠野で暮らすこともできる。	No. 34のとおり。		子育て総合支援課、商工観光課
36	2	子育て支援の充実	P65 少子化対策だけではなく、就業・出会い・妊娠・出産・子育て・教育を含めて「子育てするなら遠野」を打ち出し、遠野に住む優位性をだす。そのためには、空き家対策などの受入環境整備も含めて構築する必要がある。	No. 34のとおり。		子育て総合支援課、連携交流課
37	3	農林業の振興	P74 農業の維持は永遠の課題。収益が上がらない、後継者がいないなどの課題もあるが、遠野市のような山村地域では、農業あってこそ地域が活性化される。地域が衰退すれば市全体も停滞する。小さな農家や地域を切り捨てず、自助努力を促してほしい。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	農業振興課



第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
38	3	農林業の振興	P74 ほ場整備を進めてほしい。現状では若者に就農を勧められない。若者の就農が農業の拡大や林業振興のみならず、地域づくりにもつながっていく。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	農業振興課
39	3	農林業の振興	P74 野菜を育てる上で、水は大事。与える水も、排水も。耕作放棄地も水対策の問題から。治水対策が大事である。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	農業振興課
40	3	農林業の振興	P75 遠野牛のブランド化が広がっていないように思える。もっと推進するべきではないか。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	畜産振興課
41	3	農林業の振興	P75 食料自給率の向上、ブランド化のためにも、遊休地を活用して飼料を確保し、それによる肥育、繁殖をしていけば、遠野牛のブランド化にもつながっているのではないかと。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	畜産振興課
42	3	農林業の振興	P75 遠野牛は価格が高い。下位部分で良いから、市民が食べられる値段で提供するなどして欲しい。パドロンも遠野で生産しているにも関わらず、遠野で食べたり買ったところがない。市民みんなが食べられるブランドを考えていくべきではないか。		ブランド化を推進する中で市民にも親しまれるような取組を進めていきます。	農家支援室

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
43	3	農林業の振興	P75 6次産業を推進していくうえで、遠野の食文化を掘り起こし検証していくことが大事。新たなことを加えても一時的なもので終わると思うので、地域に根ざしたものを掘り起こし、光をあてていかなければ長続きしないと思う。		提言の趣旨に基づき、農林業の振興に取り組んでいきます。	農家支援室
44	3	農林業の振興	P81 山主は自分の山を知らない状況である。境界確認を進めるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「境界不明や」と「森林境界の明確化」を追加します。</li> <li>・「森林所有者への整備促進」に「等」を加えて表記します。</li> </ul>		林業振興課
45	3	農林業の振興	P83 指標No.324の「森林整備面積」は、国の補助金もカットされ、現実的には厳しいのではないか。No.325の「民有林再造林面積」も、実働者が減少している。No.328の「松くい虫」は、もっと大きい面積で駆除し樹種転換を図るべきである。		<p>「森林整備面積」は、28～32年度の年20ha市有林の皆伐と民有林整備への市の嵩上げ補助の継続をめどに算出しました。「民有林再造林面積」は23～26年度の平均が41.7ha、平成26年度実績が42.7haであることから42haとしました。</p> <p>「松くい虫」は、年600㎡の伐倒燻蒸駆除と100本の樹幹注入、その他市有林の樹種転換3haを継続実施し被害拡大防止を図ります。</p>	林業振興課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対 応		担当課
				修正案	原案どおり	
46	3	農林業の振興	P 83 指標No.323「木工団地事業体の売上高」の15億円はもっと増やせるのではないか。	平成26年度売上の17億円を基に、それを28～29年度の目標数値とし、30から32年度は被災地復興、公共施設の木造化等の期待値を含め18億円とします。		林業振興課
47	3	商工業の振興	P 86 市内の商工業者はほとんどが小規模の企業。企業誘致も大事だが、地元の企業への支援によって若者の定着を図るべきである。		提言の趣旨に基づき、商工業の振興に取り組んでいきます。	商工観光課
48	3	商工業の振興	P 86 「商品の販路を開拓するには、商談会、展示会」とあるが、ICTを利活用しての販路拡大についても検討すべき。		提言の趣旨に基づき、観光と交流の振興に取り組んでいきます。	商工観光課
49	3	商工業の振興	P 90 市内の宿泊客の7割はビジネス客である。遠野の企業が元気になり、宿泊客も増加するといった一体的な流れをつくってほしい。		観光マーケティング委員会の観光、宿泊等のアンケート調査に基づき、具体的な取り組みを進めていきます。	商工観光課
50	3	商工業の振興	P 90 遠野駅舎の活用策の検討を進めてほしい。まちなかから銭湯が無くなったがニーズはある。例えばスーパー銭湯のようなものも活用策の一つではないか。		今後の方針について、引き続きJR東日本と協議を進めていきます。	まちづくり再生担当

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
51	3	観光と交流のまちづくり	P94 イベントの日程が重なるのは、もったいない。情報を共有し、重ならないように日程を組んだほうが、集客や経済的にも効果が出るのではないか。		今後も、イベントの日程が重ならないよう注意を払いながら取り組みます。	商工観光課
52	3	観光と交流のまちづくり	94ページに「地域資源を生かした郷土料理」とあるが、思い浮かばない。ひつつみも市内で食べられる店は少ないし、ジンギスカンといっても市内で羊を生産していない。もっと幅広い年代や違う分野の人からのアイデアを聞きながら、遠野ならではの食材や料理の考案が必要ではないか。		市内各地域に伝わる郷土料理をPRするとともに、地域に眠っている食材を掘り起こし、新たな郷土料理の創出とPRに取り組みます。	商工観光課
53	3	観光と交流のまちづくり	P94 観光メニューの充実で、自然環境を堪能する掘り起こしをしてほしい。山とか川を楽しむことも文面に入れるべき。		「遠野遺産」などの地域資源、遠野の宝の部分に自然環境も網羅している考えています。	商工観光課
54	3	観光と交流のまちづくり	P95 受入機能の強化では、ラグビーのワールドカップが釜石市で開催されるので、その対策も必要であるので、94ページのSL銀河と同様に受け入れ体制の強化を図るべき。		平成28年度から外国人観光客の来訪に伴う受け入れ機能の強化に取り組み、年次計画で態勢整備強化に努めます。	商工観光課
55	3	観光と交流のまちづくり	P102 近隣の国との交流が必要ではないか。例えば台湾は日本から3時間で行ける。遠野との関係も深いし日本語も通じる。もっと現実的な国際交流や経済交流へシフトしてもよいのではないか。(サレルノは遠く経費がかかるという意味もある)		国内外の交流のあり方について、現在、連携交流のあり方懇話会を立ち上げて検討しています。	生涯学習スポーツ課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対 応		担当課
				修正案	原案どおり	
56	3	観光と交流のまちづくり	P102 国際交流でサレルノはあるが、アメリカチャタヌーガ市、ドイツシュタウナウ市は記載しなくてもよいのか。	中学生海外派遣事業の取組で「アメリカ・チャタヌーガ市」を追加します。	国内外の交流のあり方について、現在、連携交流のあり方懇話会を立ち上げて検討しています。	生涯学習スポーツ課
57	3	観光と交流のまちづくり	P102 国際交流では、文化的な交流と経済交流も大事。ブランド化として海外に売り込む際は、ターゲットを絞って進めるべき。		提言の趣旨に基づき、観光と交流の振興に取り組んでいきます。	商工観光課
58	3	観光と交流のまちづくり	6次産業については、75ページと86ページに分かれて記載されているが、6次産業は1次産業の方々が販売までいていく考えだと思うので、75ページに集約してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・86ページの「6次産業化や地産地消」を削除します。</li> <li>・88ページのまちづくり指標から「再掲 6次産業化関連効果額」を削除します。</li> </ul>		商工観光課、農家支援室
59	3	観光と交流のまちづくり	6次産業を推進するにも、専門家がいないので、専門家の育成にも取り組むことを記載してはどうか。		専門家育成は、国や県で対応しており、遠野市の役割としては、こうした専門家の知見も活用しながら、遠野市内の実践事例を1つでも増やしていくことが必要であると考えています。	農家支援室

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
60	4	ふるさと教育の推進	P106 ふるさと教育とは、どのような教育なのか、市外の人にもわかりやすいような表現にしてはどうか。基本理念である「遠野スタイル」という言葉に基づき、市民協働、まちづくりに基づいた、遠野ならではの、遠野らしいとかを、そういうことを含めたふるさと教育という、ふるさと教育とは何かの説明があったほうが良い。	下記の注釈を記載します。 「日本の永遠のふるさと遠野」の良さである、ふるさとを愛する心、人と人の温かなつながり、自然の恵みと共に生きる姿、古き良きもの大切にしながら新しいものを生み出す力などの恵まれた文化の中で、これらを活かし、夢と誇りを育む人づくりのことである。		教務課
61	4	ふるさと教育の推進	P107 大人の就業状態などの影響で、子どもの保育状況に差が出ないようにしてほしい。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	子育て総合支援課
62	4	ふるさと教育の推進	P107 核家族化の進行などによる影響で、親以外の大人が子どもに関わる機会が少なくなっている。地域に関わることは重要である。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	子育て総合支援課
63	4	ふるさと教育の推進	P107 就学前に特別な支援を要する子どもかどうかの判断をし、早くから対処することが子どもにとっても家族にとっても良いと思う。要支援の子どもに関する情報提供の取組がもっと必要である。	「子どもの発達にかかわるきめ細かな情報の発信に努めるとともに」を追加します。		子育て総合支援課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
64	4	ふるさと教育の推進	P111 食事の大切さ、早寝早起きなど生活習慣の大切さを小さいうちから身に付ける取組を行ってほしい。特に、正しい食生活に力をいれることは、地産地消にもつながる。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	総合食育推進課
65	4	ふるさと教育の推進	P111 学校教育と地域社会との連携は大切だが、地域教育協議会の持ち方など各町によって温度差がある。中学校の再編もあったので、取り組み方を見直す時期なのではないか。		中学校単位とすることについては、現在、検討中です。	生涯学習スポーツ課
66	4	ふるさと教育の推進	P112 まちづくり指標402・403「小中学校標準学力検査偏差値」について、全国の偏差値や岩手県の偏差値の説明がなく、指標の値が妥当かどうかの判断ができないので、分かりやすい説明をしてほしい。	表外に偏差値についての説明文を記載します。		学校教育課
67	4	ふるさと教育の推進	P112 小学生の偏差値は全国平均を上回っているが、中学生になると下回っている。教育関係者以外の方々の協力もいただきながら、取り組む必要がある。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	学校教育課
68	4	生涯学習の推進	P115 老人クラブの会員数が指標はあるが、青年団体4団体の会員数の指標もあれば、我々もがんばりたい。	新たに、会員数の指標を設定します。		生涯学習スポーツ課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
69	4	生涯学習の推進	P 116 まちづくり指標407「全講座における継続的な学習機会の割合」の目標値が高いのではないかと確認してほしい。	講座の「割合」ではなく「講座数」に修正する。		生涯学習スポーツ課
70	4	ふるさとの文化の継承・創造	ふるさとの文化の継承では、もっと、地元の子ども達を巻き込んでの取り組みがあってもよい。中学生が地元について学んだり、調査をしたりすることで、地域が活性化し、ふるさとの文化が引き継がれていく。		各種講座や教室を企画・開催し、生涯学習や学校教育、商工、福祉など様々な分野との連携に努め、市民のニーズに応じた学習機会の提供と充実を図ります。	文化課
71	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 122 図書館活動の推進について、市立図書館と学校との連携を深めてほしい。市立図書館の利用と学校の図書活動とを連動させるような取組を期待する。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	文化課
72	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 122 ふるさと村の自然系の資料館も、もっと活用してほしい。また、伝承園、水光園も生きた博物館として、もっと活用してほしい。	「遠野まちなか・ドキ・土器館」の後に「遠野ふるさと村自然資料館」を追加します。		文化課
73	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 125 遠野遺産に認定されても、その後、保護や活用がされないケースがあるのではないかと確認してほしい。もっと地域への呼び掛けを行い、遠野遺産の取組を普及・周知してほしい。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	文化課
74	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 125 郷土芸能の育成が、どこの団体でも困っている。子どもの発表する場、ひのき舞台を設けてほしい。		提言の趣旨に基づき、ふるさと教育の推進に取り組んでいきます。	文化課



第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
75	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 129 語り部1,000人プロジェクトは、まちづくり指標が平成32年度で1,000人であるが、達成しても継続して取り組んでほしい。		提言に基づき、認定語り部の活用やスキルアップに継続して取り組みます。	調査研究課
76	4	ふるさとの文化の継承・創造	P 130 まちづくり指標426「市史編さん事業進捗率」について、指標設定の考え方が分かりづらいのではないかと再確認してほしい。 案1)事務的進捗状況と市史編さんのための普及・広報活動の二つに分けてはどうか。 案2)年度ごとの進捗率ではなく、全体の完成に対する進捗率ではどうか。 案3)このままでよいのではないかと。 いずれにしても、もう少し分かりやすく説明を加えたほうが良いと思われる。	指標設定の考え方の説明を「下記4項目*(1項目25%)すべてを実施した場合100%と設定」に変更します。		調査研究課
77	5	住民主体のふるさとづくり	P 134 婦人会では、40代より若い人が少なく、30代、40代の確保が課題となっており、その対策が必要である。		提言の趣旨に基づき、住民主体のふるさとづくりに取り組んでいきます。	生涯学習スポーツ課
78	5	住民主体のふるさとづくり	P 135 進化まちづくり検証委員会の提言を受け、今後の議論にもよると思うが、地域づくり計画の策定数を、まちづくり指標としてもよいのではないかと。		住民自治を推進するため、全地区での計画策定に取り組んでいきます。	市民協働課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
79	5	住民主体のふるさとづくり	P136 指標No.501では河川清掃の参加者数について。多面的機能の事業でも環境を視点に水路の補修等にも取り組んでいる。普段の活動を含めると難しい面もあるが、1日の活動だけで把握すると全体が見通せないものがあると感じている。		多面的機能支払事業は、農道畦畔及び水路等の維持管理を面的に行っている事業です。また、まちづくり指標を「多面的機能支払事業取組農地の割合」として設定していることから、河川清掃とは別に考えています。	環境課・農業振興課
80	5	住民主体のふるさとづくり	P139 市長と語ろう会は、日中の開催であれば女性等も参加しやすいのではないかと。市長と部長が並んでいると威圧感を感じる人もいないのではないかと。福祉とか農業とか分野別にも開催してはどうか。若い世代が参加し、市政に関心を持つことが大事である。		懇談テーマを設定したり、懇談テーマや懇談者にあった開催時間を考えます。	企画総括担当
81	5	住民主体のふるさとづくり	P139 まちづくり指標で、市長と語ろう会は、実施回数ではなく、参加者数としてもよいのではないかと。	まちづくり指標を実施回数ではなく、参加者数に見直します。		企画総括担当
82	5	行財政基盤の強化	P143 職員の削減を進めるのは、ある意味、正しいかと思うが、現場をみると職員が足りないと感じる場面がある。役所の職員が人事異動でかわると対応がかわるとか、こちらから説明しないと分からないとかの例もあると聞くので、遠野市では、そのようなことがないように配慮すべきである。		職員数については、定員管理計画に基づいて計画的に管理しているところです。今後、本庁舎整備に合わせた分散庁舎の一部解消や組織の再編などにより、更なる効率的な組織運営に努めます。また、人事異動による影響については、引継の徹底等により悪影響が生じないように配慮します。	総務課

第7、8回遠野市総合計画審議会において寄せられた意見・提言に対する対応

資料NO.1

No.	大綱	政策	意見・提言	対応		担当課
				修正案	原案どおり	
83	5	行政サービスの向上	P148 ユニバーバルデザインを進めるのであれば、日本の文化ではあるが、靴をはいたまま入れる地区センターを検討してもよいのではないか。		地区センターの今後の在り方に併せて検討を進めていきます。	市民協働課
84	5	行政サービスの向上	P149 高速道路の開通により車が宮守を通らなくなる懸念があるので、情報ビジネス校の跡地活用に期待したい。 愛知県では、廃校になった跡地を改修して、地域が会員制のスポーツクラブとして利用している例もあるので、参考にしてほしい。		情報ビジネス校の跡地活用については検討中であり、県との協議を進めていきます。	まちづくり再生担当
85	5	行政サービスの向上	P149 本庁舎の1階に、多目的市民ホールを設けるとのことで、市民協働、地域づくりにとって重要だと思う。ホールの近くには、商工観光課になっていたが、市民協働課が担った方がよいのではないか。		配置については、今後更に検討していきます。	本庁舎建設室